

表土剥ぎ土を利用した 現地植生の再生について

国土交通省 近畿地方整備局

豊岡河川国道事務所

工務第一課 越野 慎二

□目次

1, はじめに～円山川の概要～

2, 自然再生の事例

実施内容

施工前の植生調査

3, まとめ

1,はじめに 円山川の概要



[円山川の特徴]

- ・下流部は緩い勾配である。
- ・上流部は急な勾配である。
- ・豊岡盆地は粘性土が層厚40m堆積する軟弱地盤の地域である。

● 流域面積・・・1,300km²

● 流域の約86%が山地
、約14%が平地

● 幹線流路延長・・・68km

● 直轄管理区間

円山川・・・27.73km

奈佐川・・・4.1km

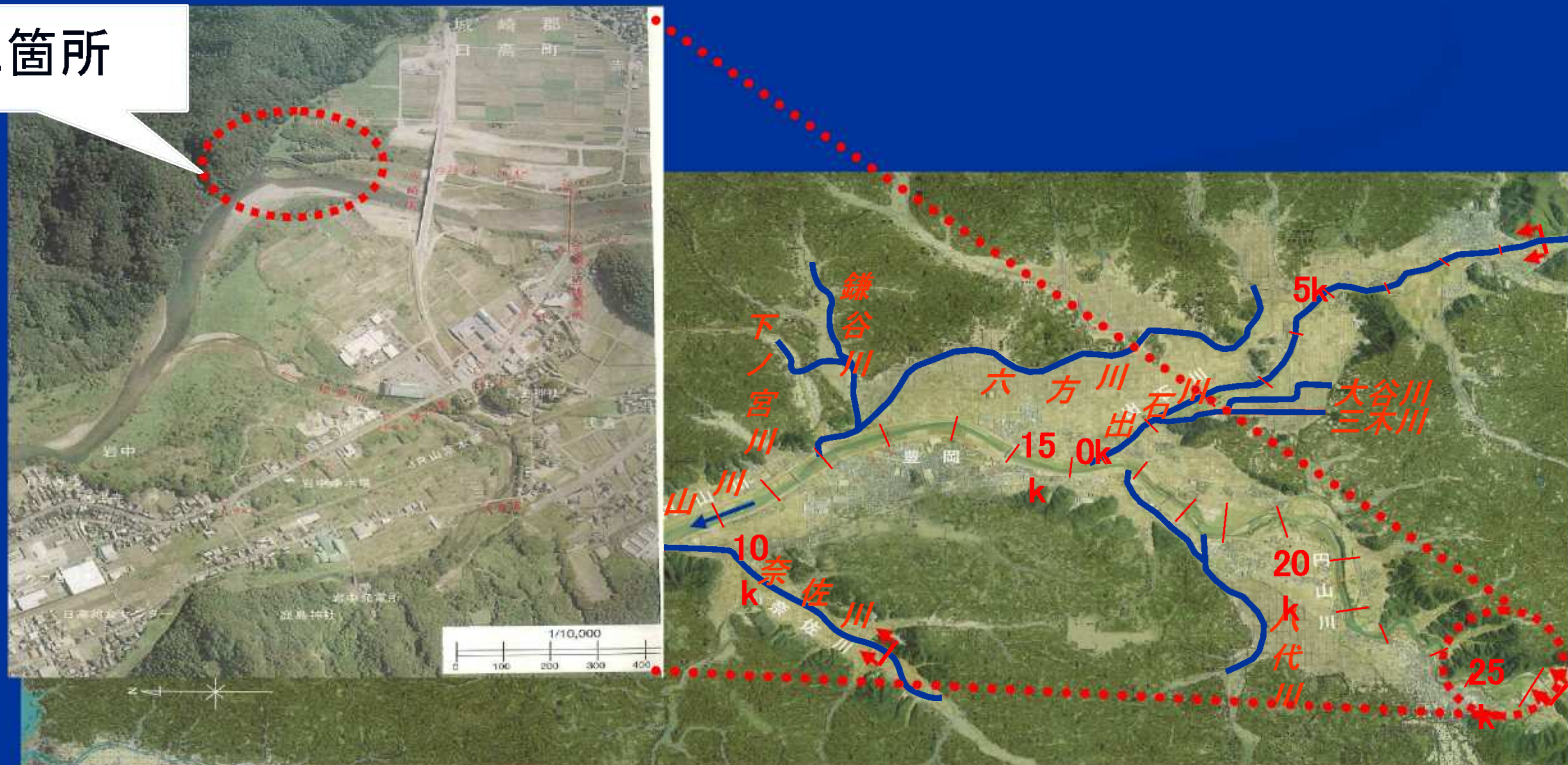
出石川・・・8.7km

2, 自然再生の事例

・豊岡市赤崎地区の特徴

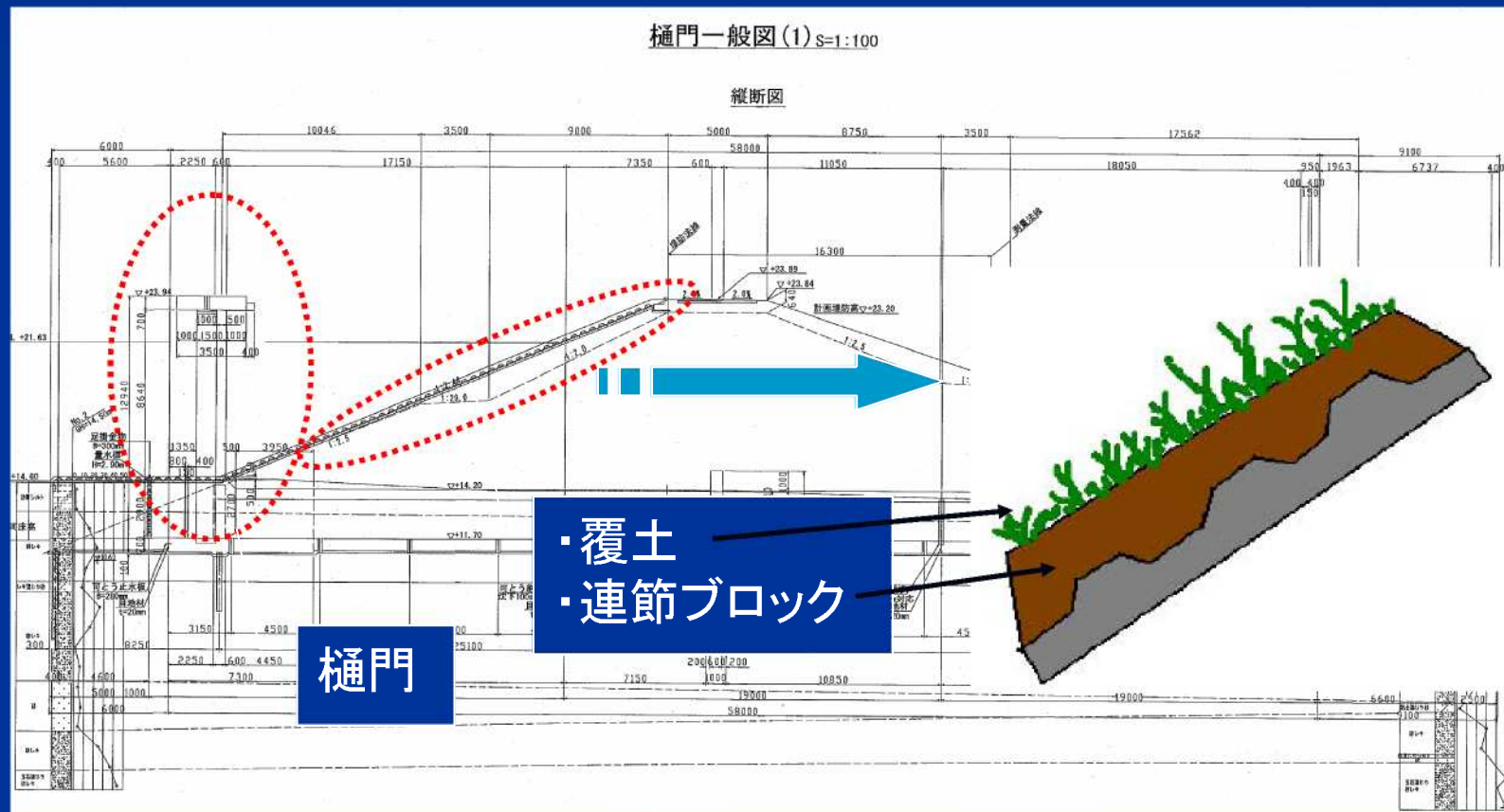
円山河口部から約26kmに位置した中流部であり、
河川が大きく蛇行する箇所である。また、無堤地区でもある。

施工箇所



実施内容

進美寺川樋門新設他工事の築堤工事において、現地の表土剥ぎ土を護岸の覆土として、活用した。



施工前

オギ群生など、様々な
植生が存在していた。



施工後

現地の表土剥ぎ
土を築堤の覆土
に活用した。



施工後約半年

施工後、早期に自然再生が可能となる



・現状(施工後約半年)



現地に植生しているオギ群生やその他の植物
について、表土剥ぎを行い、覆土に活用した。

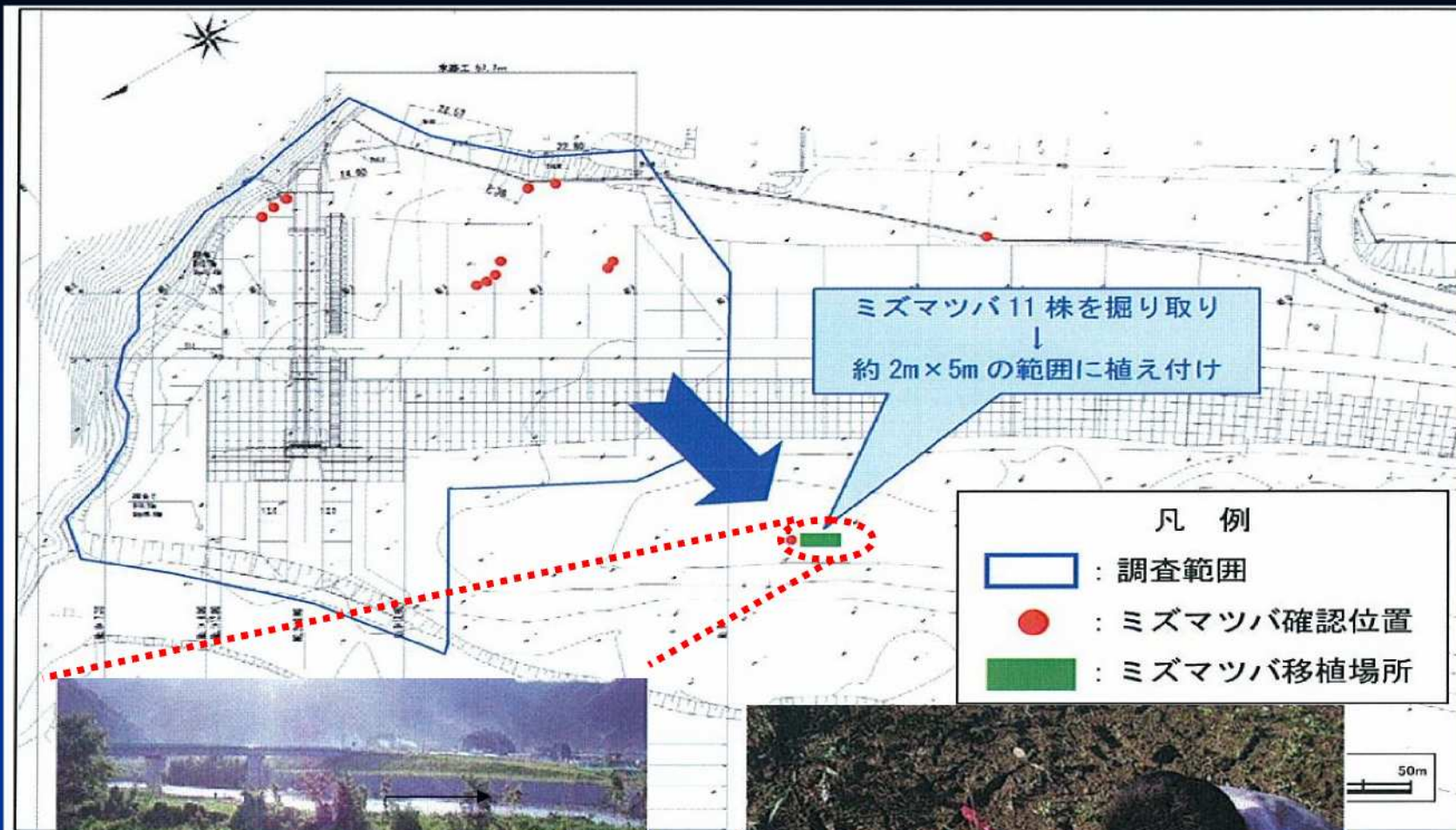
[メリット]

- ・自然環境を早期に復旧することができる。
- ・有効活用することで、コスト縮減ができる。

覆土を行わない場合の表土剥ぎ土は有料処分
を行っている。

■ 施工前の植生調査





3, まとめ

◇今後の課題・改善方法

[課題]

覆土厚が適切であるのか検討する必要がある

[改善方法]

モニタリング等の追跡調査を実施し、出水前後の植生の変化などを把握する。